



桃五だより



No.615

(9月号)

2022.9.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

「休み」と「仕込み」の夏を越えて

校長 川田 忠

今年の夏は、東京の猛暑日の日数が更新されたり、各地で大雨の被害が出たりしました。新型コロナウイルス感染症の広がりも大きく、夏休みの予定を変更せざるを得ないご家庭もあったと推察します。それでも、子供たちは42日間の夏休みに有意義な経験を積み重ねて、大きく成長し学校に戻ってきました。今日から、桃五小の生活を再開します。

夏休み中のある日、帰宅するために遊歩道を歩いていると、3人の2年生の子供たちと出会いました。そして、元気に挨拶をしてくれた後、こんな言葉をかけられたのです。「校長先生って、夏休みに何してるの？」

学期中の校長の様子でさえよくわからないのに、夏休み中になればなおさらなのでしょう。子供たちからすれば、月曜朝会の話をするわけではなく、授業を見回るのでもなく、校長は学校で何をしているのだ、という素朴な疑問はもっともな話でした。

「夏休みはね、2学期の準備をしているんだよ」と伝えると、「ふーん」という返事。もっとわかりやすく説明してほしいという視線でしたが、それよりも次の遊び先に早くいきたいという思いが強く、「校長先生、またね」と続きの話もしないで立ち去っていきました。

夏休みの期間は、学校にとって2学期以降の準備に充てられます。スポーツフェスティバルの表現では、どんな内容に挑戦するかを検討している学年。学芸会の台本を作り、小道具や衣装等のイメージを膨らませ、演目を子供たちにどう提示するかを考えている教員。スポフェスや学芸会の保護者参観については様々な状況を想定し、いくつかの案を用意し

ている係。古くなった児童用机・椅子の交換や倉庫内の整備をしたり、給食時にアレルギー事故が起こった時の研修を行ったりもします。タブレットの環境を整え、校内研究の授業づくりを進め、そして何よりも、2学期からの学習が子供たちにとって深い学びになるように授業の準備に時間をかけます。

また、今年の夏休みは、幼保小連携担当が幼稚園・保育園の5歳児を対象にした学校見学会を企画しました。コロナの流行で、以前行っていた学校体験会が実施できていない状況の中、入学してくる子供たちが少しでも小学校を理解してもらえれば、と考えての実践でした。

体育館でゲームをしたり、教室で椅子に座って授業の雰囲気を感じてもらったり、校長室をはじめいろいろな教室を見て回ったりしました。来年度入学する子供たちは、目を輝かせ、楽しそうに小学校にかかわっていました。本校に入学する子供たちの多い幼稚園や保育園を対象を絞った活動でしたが、この企画も学校として大事な準備の機会となりました。

子供たちは、家庭での愛情を受け、体や心を十分に休めることができ、2学期に向けてのエネルギーをたくさん貯めて学校に戻ってきました。同様に、学校も、休むことと、これからに生かしていける仕込みの時間をもらいました。

「休み」と「仕込み」を進めることができた夏休みは、充実した2学期の学校生活を予感させます。夏を越えて、子供たちにとっての実りの秋がやってきます。今学期も、桃五小へのご支援ご協力をよろしく願いいたします。

9月の生活指導目標

もも五の子どものやくそくを守ろう

2学期が始まり、桃五小に子供たちの元気な声とともに、学校の規則正しい生活が戻ってきました。夏の疲れが出てきたり、生活リズムが乱れたりして体調を崩しやすくなる時期です。夏に培った力を発揮し、充実した学校生活を送るために、早寝早起きを心がけ、時間や時刻を守って生活していきましょう。